

「道の駅」における 防災・減災ニーズについて

「道の駅」における防災・減災ニーズ調査概要

○OR6.7に「道の駅」第3ステージ推進委員会にて公表された中間レビューと今後の方向性でも取り上げられている通り、R6.1に発生した能登半島地震を契機に、道の駅における防災力に対してより大きな期待が寄せられている。

○更なる防災機能の強化における検討材料を収集するため、「道の駅」利用者を対象とした対面アンケート調査を実施。

■調査概要

項目	内容
調査目的	OR6.7に「道の駅」第3ステージ推進委員会にて公表された中間レビューと今後の方向性でも取り上げられている通り、R6.1に発生した能登半島地震を契機に、道の駅における防災力に対してより大きな期待が寄せられている。 ○これまでの調査において取得できていない道の駅利用者を対象とした、災害時の「道の駅」の利用意向や防災拠点としてのニーズ・問題点を調査・把握することで、更なる防災機能の強化における検討材料を収集することを目的に実施するものである。
調査方法	○対面アンケート調査
調査場所	○道の駅「朝霧高原」
調査対象	○道の駅「朝霧高原」来訪者
目標サンプル	○平日・休日 各100サンプル以上 (各日、男性・女性それぞれ50サンプル以上)
調査日	○11/10(日)、11(月) 10時～17時 (2日間)

■調査実施イメージ

調査票

道の駅「朝霧高原」防災機能強化におけるニーズ把握

道の駅では、「道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供」と「地域の発展に寄与」といった数項目的に、(1)道路利用、(2)情報提供、(3)地域振興、(4)観光振興の4つの基本コンセプトのもと、これまでに数多くのサービス、施策、多岐にわたる施策に対して、道路利用や観光振興のみならず、道の駅に対して「防災機能」の強化に大きく期待が寄せられており、実際の災害発生時においても多くの現場で活躍しています。

この道の駅に活用されている道の駅「朝霧高原」は、防災機能強化(令和 9年度)に選定されており、来訪者に伝えるため、様々な防災機能・施設・体制の整備を進めています。

本調査は、道の駅「朝霧高原」を拠点とする道の駅のさらなる防災機能の強化・防災機能の向上のため、道の駅を利用する方々の声を聴き、今後の道の駅における防災機能を収集することを目的に実施しています。

【1】道の駅「朝霧高原」を訪れた目的について教えてください。【複数選択可】

1 休旅(トイリス)	2 食事	3 買物	4 無料利用の利用
5 情報収集(道路・交通情報)	6 情報収集(地域・観光情報)	7 文化・交流活動の利用	8 レクリエーション施設の利用
9 宿泊・滞在施設	10 その他()		

【2】道の駅「朝霧高原」立ち寄った際の滞在の滞在地を目的別に教えてください。【複数選択可】

【出発地】() 県 () 市・町・村	
【目的地】() 県 () 市・町・村	

【3】道の駅「朝霧高原」に立ち寄った際の主な交通手段について教えてください。【複数選択可】

1 自動車(個人所有車)	2 自動車(会社所有車)	3 自転車	4 徒歩
5 バス	6 タクシー	7 その他()	



■調査項目

NO	調査項目	調査目的
1	○回答者属性	・回答者の基礎情報(性別、年齢、職業)を把握
2	○道の駅を立ち寄った際のOD	・道の駅の使われ方(顕在的なニーズ)の把握
3	○道の駅を立ち寄った際の交通手段	
4	○道の駅を訪れた目的	
5	○災害時の道の駅の利用意向	・災害時の道の駅の利用意向を把握 ・道の駅に対する防災へのイメージを把握 ※利用したい具体的な理由も調査
6	○防災道の駅としての認知度	・道の駅の防災拠点としての認知度を把握 ・道の駅の防災拠点としてのPR効果も期待
7	◆道の駅の防災機能強化の必要性	・一般的な道の駅に対する防災機能強化に対するニーズを把握 ※設問6で、道の駅における防災機能・施設をある程度理解してもらったうえで回答いただく
8	◆災害時に求める道の駅の防災機能・施設	・道の駅における防災面での潜在的な需要を把握

○：道の駅「朝霧高原」を対象とした調査項目
◆：道の駅全般を対象とした調査項目

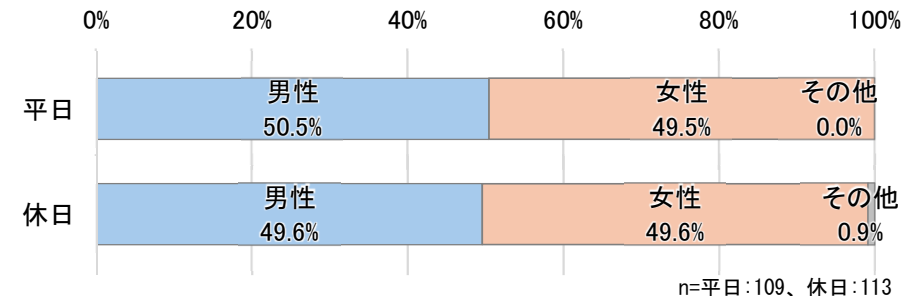
「道の駅」における防災・減災ニーズ 調査結果

- 性別について、平日、休日ともに「男性」、「女性」とともに目標サンプル(50)以上を確保。
- 年齢について、平日に比べ休日の方が若い世代の来訪者の割合が高い傾向。
- 職業については、一般的にお休みであることが多い休日の方が、「会社員・公務員」の割合が高い傾向。
- 出発地・目的地については、平日休日で大きな差はない。

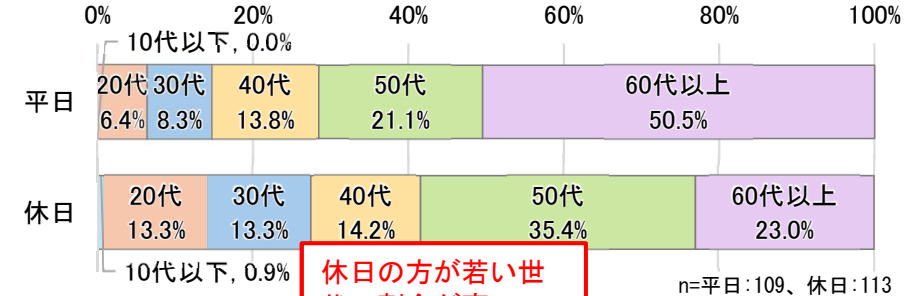
■回答者属性

○性別

男性・女性ともに目標サンプル(50)を取得

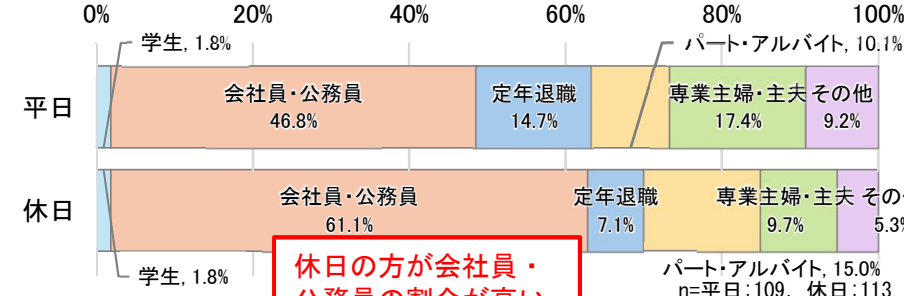


○年齢



休日の方が若い世代の割合が高い

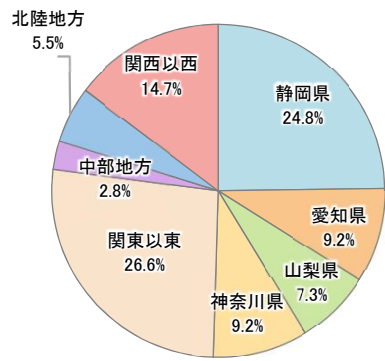
○職業



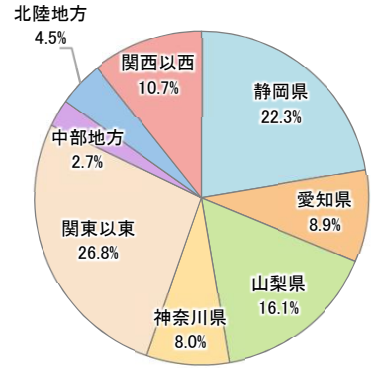
休日の方が会社員・公務員の割合が高い

■道の駅「朝霧高原」を立ち寄った際の出発地

○平日

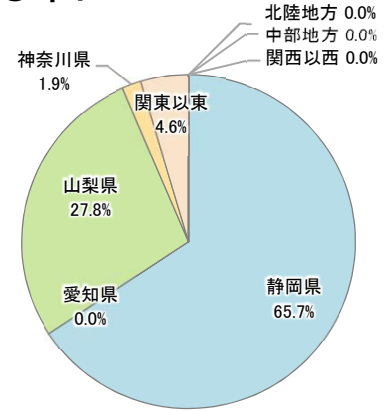


○休日

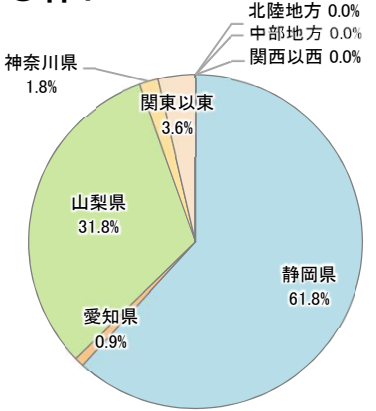


■道の駅「朝霧高原」を立ち寄った際の目的地

○平日



○休日

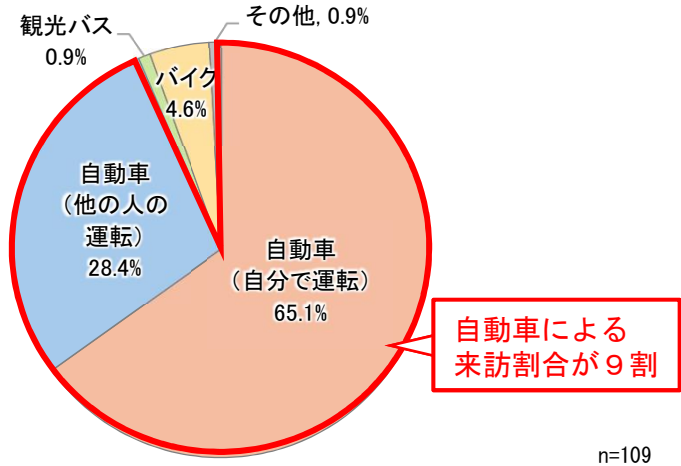


「道の駅」における防災・減災ニーズ 調査結果

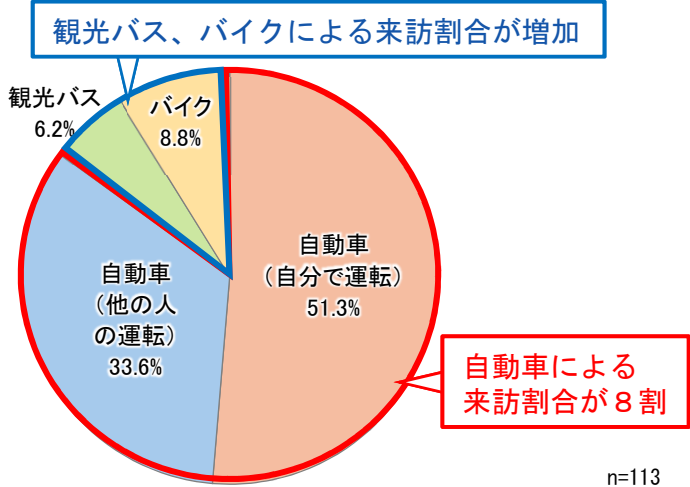
- 平日では、9割以上が「自動車」による来訪を占めている一方、休日では8割程度にとどまり、「観光バス」や「バイク」での来訪割合が増加。
- 来訪目的については、平日、休日ともに同様の傾向であり、どちらも「休憩(トイレ等)」の来訪割合が最も高く、次いで「買物」、「食事」と続く。

■道の駅「朝霧高原」に立ち寄った際の主な交通手段

○平日

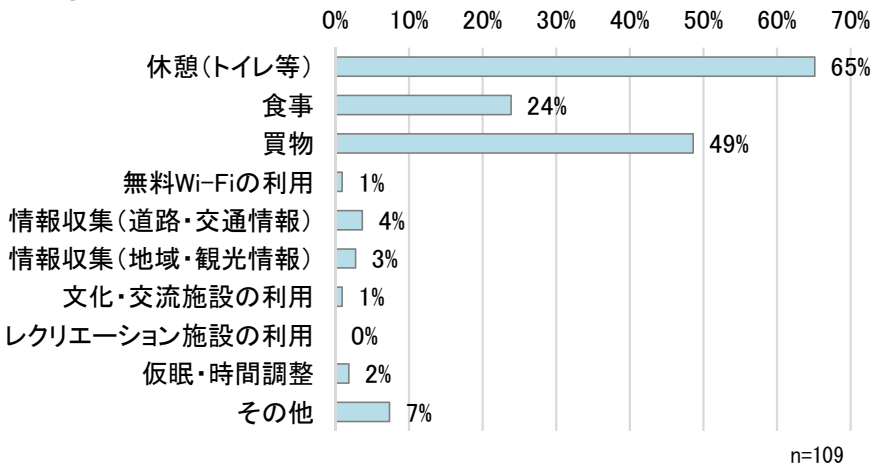


○休日

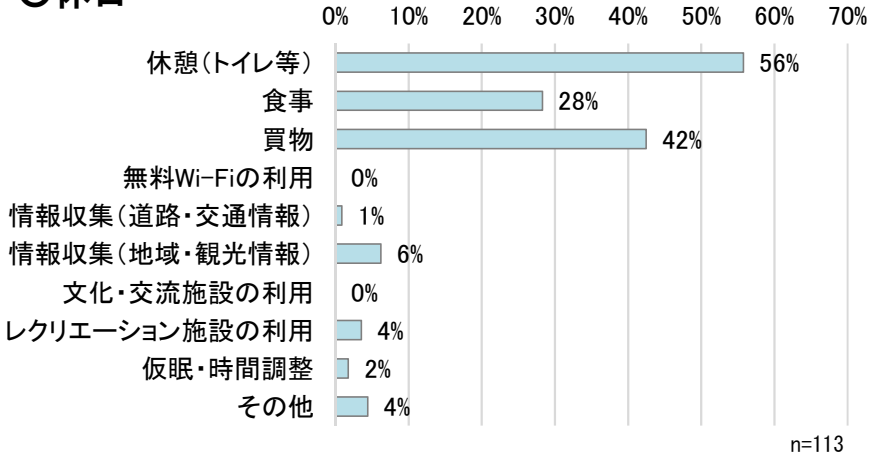


■道の駅「朝霧高原」への来訪目的

○平日



○休日

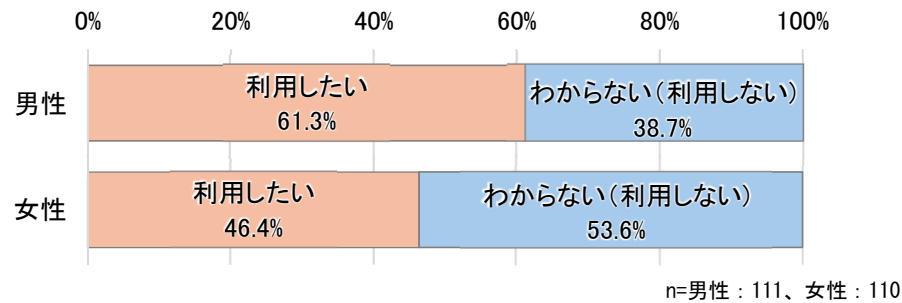


「道の駅」における防災・減災ニーズ 調査結果

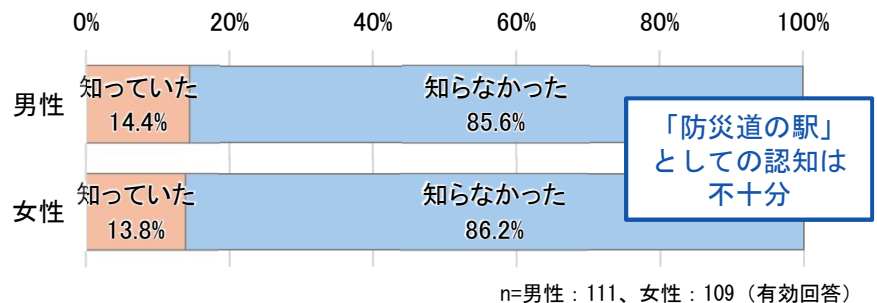
- 災害時における道の駅「朝霧高原」の利用意向について、男性の方が「利用したい」と回答した割合が高く、6割強。一方、女性は5割弱。
- 「利用したい」と回答した理由について、男性では「休憩場所の確保」に係る理由の割合が高い一方、女性では「必要な物資の確保」や「防災施設の整備・利用ニーズ」に係る理由の割合が最も高く、理由内容に若干の差異がある。
- 防災道の駅の指定に対する認知度は、男性、女性ともに1割程度と、十分な周知には至っていない。

■災害時における道の駅「朝霧高原」の利用意向

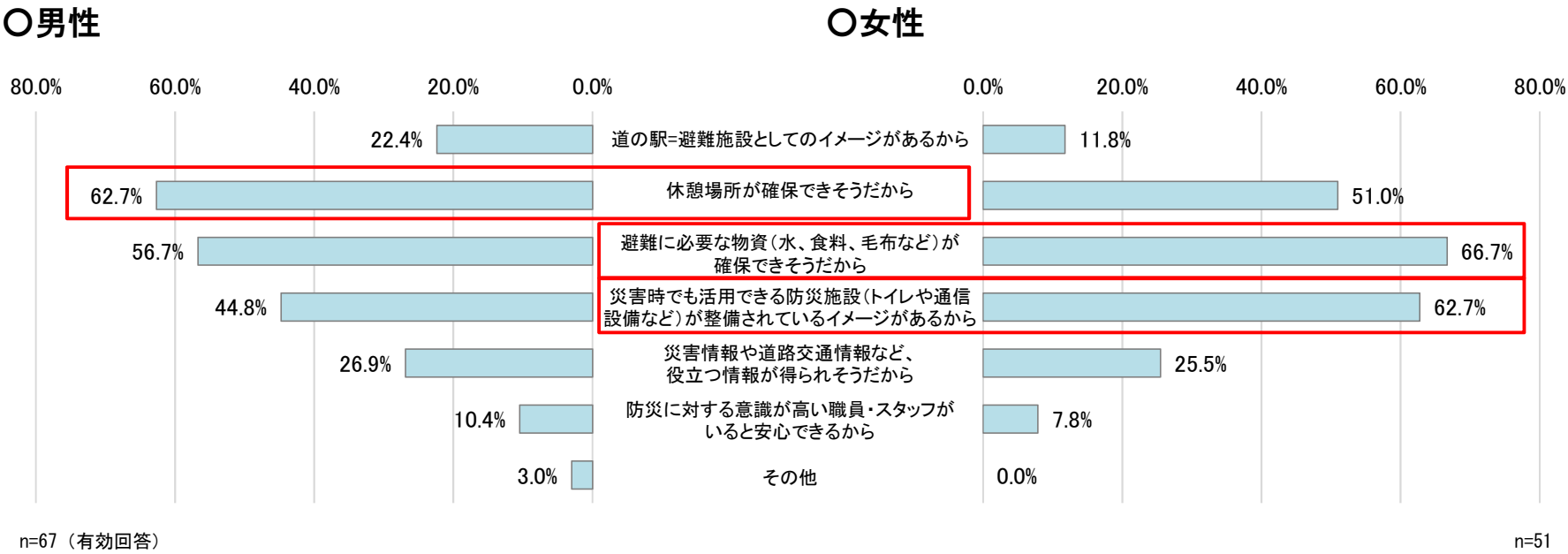
<利用意向>



■道の駅「朝霧高原」の防災道の駅の指定に対する認知度



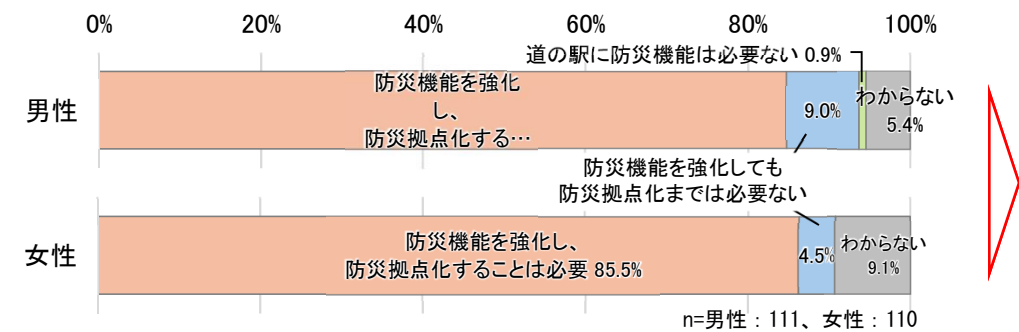
<「利用したい」と回答した理由>



「道の駅」における防災・減災ニーズ 調査結果

- 「道の駅」に対する防災機能強化に対するニーズは、男性、女性いずれも9割弱を占めており、「道の駅」=「防災拠点」といったイメージが定着。
- 災害時に道の駅に求める支援や設備について、男性、女性で傾向に大きな差はないが、男性は「情報提供」や「災害支援活動拠点スペース」、「BCP計画」といった災害活動に係る支援や設備に対するニーズが高い一方で、女性は「防災トイレ」や「生活必需品の配布」、「避難場所としての建物」といった、一時避難・滞在場所としてのニーズが高い傾向。

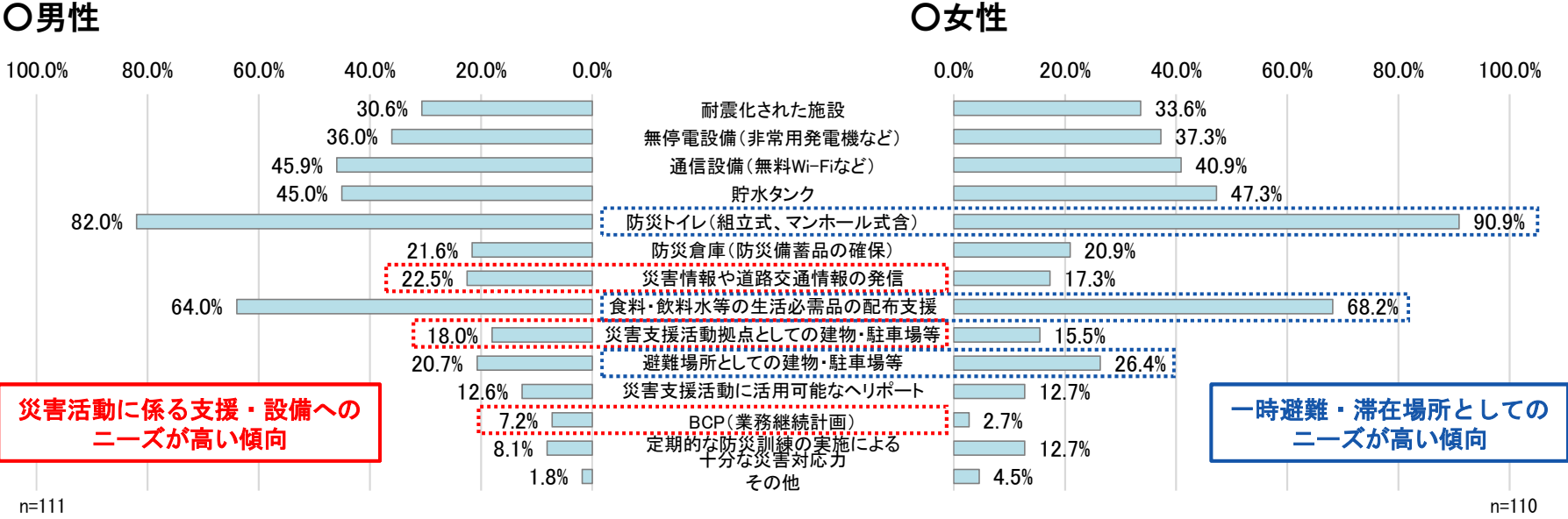
■道の駅の防災機能強化はどの程度必要だと思うか



9割の方が防災機能の強化が必要と回答

「道の駅」=「防災拠点」といったイメージが定着

■災害時に道の駅に求める支援や設備



災害活動に係る支援・設備へのニーズが高い傾向

一時避難・滞在場所としてのニーズが高い傾向

「道の駅」における防災・減災ニーズ 調査結果まとめ

NO	調査項目	調査結果
1	○回答者属性	・平日に比べ休日の方が若い世代の来訪者の割合が高い傾向。 ・一般的にお休みであることが多い休日の方が、「会社員・公務員」の割合が高い傾向。
2	○道の駅を立ち寄った際のOD	・平日休日で大きな差はない。
3	○道の駅を立ちよった際の交通手段	・平日では、9割以上が「自動車」による来訪を占めている一方、休日では8割程度にとどまり、「観光バス」や「バイク」での来訪割合が増加。
4	○道の駅を訪れた目的	・平日、休日ともに同様の傾向であり、どちらも「休憩(トイレ等)」の来訪割合が最も高く、次いで「買物」、「食事」と続く。
5	○災害時の道の駅の利用意向	・男性の方が「利用したい」と回答した割合が高く、6割強。一方、女性は5割弱。 一定の利用意向を確認。 ・「利用したい」と回答した理由について、 男性では「休憩場所の確保」に係る理由の割合が高い一方、女性では「必要な物資の確保」や「防災施設の整備・利用」に係る理由の割合が最も高く、若干理由内容に差異がある。
6	○防災道の駅としての認知度	・男性、女性ともに1割程度と、十分な周知には至っていない。
7	◆道の駅の防災機能強化の必要性	・ 男性、女性いずれも9割弱を占めており、「道の駅」=「防災拠点」といったイメージが定着。
8	◆災害時に求める道の駅の防災機能・施設	・男性、女性で傾向に大きな差はないが、 男性は「情報提供」や「災害支援活動拠点スペース」、「BCP計画」といった災害活動に係る支援や設備に対するニーズが高い一方で、女性は「防災トイレ」や「生活必需品の配布」、「避難場所としての建物」といった、一時避難・滞在場所としてのニーズが高い傾向。

○：道の駅「朝霧高原」を対象とした調査項目
◆：道の駅全般を対象とした調査項目

機能強化検討の方向性
<道の駅「朝霧高原」> ・「災害発生時に利用したい」という一定の利用意向を確認。 ・災害発生時の利用ニーズが高い「休憩場所」「必要な物資」「防災施設(トイレ・通信設備)」等を中心に、引き続き十分な機能発現が可能な状況にあるか確認・点検していくことが望ましい。
<参考：道の駅全般> ・ほとんどの利用者において「道の駅」=「防災拠点」といったイメージが定着。 ・男性のニーズが高い「情報提供」「災害支援活動拠点スペース」「BCP計画」といった災害活動に係る支援や設備や、女性のニーズが高い「防災トイレ」「生活必需品の配布」「避難場所としての建物」といった、一時避難・滞在場所に係る機能強化を中心に進めていくことが望ましい。 ・性別によっても必要とされる機能、サービスに差異が生じているため、利用者に応じた柔軟な対応を想定した計画や訓練を事前に検討しておくことで、道の駅としてのさらなる魅力向上が期待。